

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4072000336		
法人名	医療法人 いくしま医院		
事業所名	グループホームゆとり庵	ユニット名	ゆとり庵 I
所在地	福岡県柳川市田脇760-1		
自己評価作成日	2019年7月11日	評価結果市町村受理日	2020年1月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院4-3-7 フローラ薬院2F		
訪問調査日	2019年7月26日	評価確定日	2019年8月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設当初から利用者様達ご自身で書き記された「一日一日を大切にがあるがままに自分らしく生き、人として愛され人生を全うしよう」という言葉を、胸に刻んでいる。医療との連携を取り、スタッフが観察したことを医療側に毎日二回報告している。食事の面でも薄味を心がけ糖尿病食や貧血、低体重等個人の状態に合わせた味付けや食事形態、食事内容にして注意を払い、健康管理を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

柳川市にある“ゆとり庵”の敷地内には小川があり、メダカを眺めることができる。四季折々の花が咲き、散歩ができる環境も作られている。“ゆとり庵”の運営理念は「①高齢者の正しい理解 ②寄り添う介護 ③サービスの向上・自己研鑽 ④家族とのつながりを大切にします ⑤フォーマル・インフォーマルを含めた地域連携」であり、「人間らしさ」「尊厳」を重視したケアへの追求も素晴らしく、施設長(看護師)からの指導も日々受けられている。食事の時に口を開ける事が困難な方にも、職員が時間をかけて介助されており、病状に応じて1年間の体調と症状変化を丁寧に記録し、同じ敷地内の幾島医院(母体法人)の院長先生に報告している。最期まで人として愛され、人生を全うできる事を大切にされており、日々誠心誠意の関わりが行われているホームであった。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念に基づいて個人個人の持っている能力を最大限に生かし続け支援する。	運営理念の①②は「①高齢者の正しい理解」「②寄り添う介護」であり、院長と施設長(看護師)から症状や治療内容の説明を受け、日々のケアに活かされている。「⑤フォーマル・インフォーマルを含めた地域連携」という運営理念もあり、園児との交流も続けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	火災訓練、祭り等参加し交流している。	認知症カフェを毎月開催し、「しめ縄飾り」等を行っている。七ツ家地区の秋祭りの時にホームに子供神輿に来てもらうようにしたり、幾嶋医院ふれあい祭りでは、ご利用者が赤い法被を着て参加し、地域の方と交流している。みのり幼稚園の慰問もあり、肩もみ等をして下さっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所のイベント、お祭り、火災避難訓練や消防訓練、地域運営推進会議等は地域の方にも案内を出し、参加してもらっている。また、認知症サポーターの養成講座にも協力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者や職員の異動、現状報告、ヒヤリハットやインシデント、事故報告、認知症や高齢者に関する話について具体的に話、質問に答えたり意見を伺っている。ご利用者様の日常や行事を紹介している。	ホームの行事や地域行事の情報交換を行うと共に、29年度から始めた認知症カフェの取り組み内容や身体拘束廃止委員会もやっている。ご利用者との交流も行われ、日々の生活状況を理解して頂いている。「防災」「ユマニチュード」「感染症」等の勉強会も行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故報告、運営推進会議で連絡を取っている	運営推進会議に市役所と地域包括の方が参加して下さい、認知症カフェの開催状況も報告している。広域連合への報告も適宜行われ、実状を理解して頂いている。キャラバンメイト養成に参加し、認知症サポーター養成講座を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について会議で説明しており、原則しないことを運営規則にも定め、身体拘束廃止委員会を設置し規則もある。	ご利用者の喜怒哀楽に寄り添い、原因分析も丁寧に行っている。タケイルケアも行われ、症状が治まれば徐々に減薬されている。不審者侵入防止のために玄関を施錠しているが、内側から簡単に開く仕組みになっており、警備保障と契約し、必要時に駆け付けて下さっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法については内部研修を行って知識の確認をしている。コンプライアンスルールを作り、掲示して周知徹底を図っている。管理者は不定期に庵内を回り言葉遣いやケアの仕方、利用者の状態などを確認している。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の制度について毎年1回内部研修を行っている。活用する際には管理者はその必要性を職員に説明し理解させている。	管理者が社会福祉士であり、毎年の研修時に職員も権利擁護の理解を深めている。入居時に家族に制度の説明を行っている。成年後見制度を利用している方もおられ、メールでやり取りをしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に見学に来てもらい、その時に時間をかけて話し合っている。契約時も重要事項説明をきちんとし、できるだけ時間をかけて契約している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	公的な相談窓口を契約書に明示し、口頭でも説明している。年1回家族へのアンケートを取っており、その内容を会議の場で発表し要望があれば検討して運営に反映させている。	毎月、お便りを送付している。「家族とのつながりを大切にします」という理念のもと、面会時等に情報交換しており、「ふれあい祭り」に参加して下さる家族もおられる。「心身機能を維持できるように」等の要望もあり、日々の生活で体を動かして頂き、介助歩行もされている。	今後も職員は「笑顔で挨拶」を心掛け、面会時や電話等で家族に暮らしぶりの報告を増やしていきたいと考えている。毎月のお便りに担当職員が近況報告を記載すると共に、散歩の写真等と一緒に郵送する予定である。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回の会議の場や日常的に意見を聞くようにしている。	職員からの意見を大切にされており、施設長は「一度試してみよう」が合言葉である。会議の中で担当者(在庫係、レク係など)を決めて業務に取り組まれている。人員補充の努力もされており、両ユニットの応援体制もできている。夜勤専門の職員とも密に情報交換している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務時間が大幅に増えすぎないよう人員の確保に努め、残業にあたっては残業指示書を書きサービス残業にならないようにしている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用の基本条件は高齢者の介護に向いているかどうかで判断している。	20～70歳代までの男女の職員が勤務している。職員の紹介で採用になる方が多く、採用後はパソコン・和裁・畑仕事・料理など、職員の得意分野を發揮して頂いている。ケアの根拠を考える事ができるように、原因分析の思考を施設長が日々指導している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	理念にもあるように「人として愛され」ることを常に念頭に置くよう指導している。年1回管理者による人権研修を行っている。	施設長は、日々のケアやミーティング等で、「ご利用者を自分の肉親だと思って接してください」と伝えている。「人間らしさ」を大切にされており、「尊厳あるケア」が行われているか、施設長などが日々のケア方法を確認し、職員は指導を受けている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種団体や市・県などの研修案内を元に、運営者と管理者が内容を検討し、シフトと個人個人の研修歴を検討したり個人の希望を考慮して受講させている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	柳川・みやま地区介護サービス事業者連絡会に入会しており、研修の参加や地区内の事業者との交流を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時の面接に時間をかけており入居後も積極的な声かけにより本人の希望を聞く努力をしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の申込みや見学に来られた時から困っていることや不安など相談に乗り、入居後も面会時に不安の無いよう利用者の状態を報告している。職員も家族と談話する事で関係が出来てくるので挨拶や会話を心がけている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談の時に必ず他施設や他のサービスの紹介を行い、共に考えて方針を決めており、何が何でも抱え込むようなことはせず、常に利用者と家族にとって何が必要かを念頭においた相談業務をしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	色々な作業や会話、声かけの中で築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に現状報告を行い、ゆとり庵で困っていることを家族の協力で改善できることもある。面会時にはお茶を出すくらいで家族水入らずで過ごしてもらっている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友達が訪ねてきやすい雰囲気作りに努力している。	会話ができる方が減っているが、日々のレクの中で懐メロを流して、昔の事を思い出して頂いている。ご利用者の近所の方が毎月来て下さり、居室で団欒されたり、家族と自宅に行かれたり、法要に行かれる方もおられる。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	できるだけ食堂やリビングなどで過ごし、部屋に閉じ込まないように支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	殆どが死亡退所であるが退所後の書類や手続き等相談にのっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一緒に生活していく中で気づいたこと、気になったことは家族面会時に確認することによって新たな情報となる事がある。	生活歴等を把握している。日常の会話で気が付いた情報を含めてアセスメントに記入し、職員間で共有している。意思疎通が難しい方は目線や手の動き、表情を確認したり、どのような時に不穏になれるのかを丁寧に観察し、食事摂取量、体重の変化等、職員間で共有し、検討している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族や本人から生活歴や家族構成、食の好みや趣味、生活習慣、介護サービスの利用状況などの情報をいただいている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	月1回のケース会議でスタッフ全員で検討している		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のケース会議、月1回の家族との面会、担当者他職員の情報をもとに作成している。	生活全般に介助が必要な方が多く、水分量、排尿量、嚥下状況、顔色等を丁寧に観察している。“トイレで排泄”等の目標が作られ、“草むしり”“野菜の収穫”等の役割も盛り込まれている。意思疎通が困難な方も多いが、声かけを続ける中で「ありがとう」等の発語が増えた方もおられる。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌、介護記録、夜勤簿、日勤簿等により、会議で検討生かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	錠剤を呑みこめなくなった利用者には薬剤師に安全を確認の上粉碎して服用していただいている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の幼稚園からの慰問をお願いしたり運営推進会議において利用者の紹介をし地域の参加できる行事を教えていただいている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医師間での協力関係も出来ており、専門は専門に受診できるように紹介状を出したりして利用者、家族の要望に答えるようにしている。	1日2回、幾島医院の看護師に病状報告しており、必要時は来て下さる。施設長(看護師)から院長への報告も行われ、医療面や内服、ケア内容の指示を頂き、薬剤師との情報交換も行われている。夜勤者は、遅出職員と一緒にバイタル測定を行い、申し送りも丁寧に行われている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	診療所の看護師とグループホームの看護師と連携して行っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療法人が設立しているグループホームであるため、医師間での協力体制もあるもので、早期に退院させ本人が混乱しないように努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にきちんと延命のための高度な延命処置はしないことを説明しており、重度化の兆しがあった場合すぐに再度の方針説明をし今後の対応を家族と話し合っている。	入居時に“看取りの方針”を説明し、ご本人や家族の意向を確認している。「最期までここで…」と希望される方ばかりで、この2年で4名の看取りケアが行われた。家族がプリン等を持参して下さり、食事介助もして下さった。24時間体制で院長と施設長(看護師)が駆け付けて下さり、最期まで誠心誠意のケアが行われている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	会議時にヒヤリハットやインシデント、事故報告の記録を検討し、緊急マニュアルを見直し、応急手当など確認している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	深夜想定避難訓練を何度も行っており、諸轄消防署より指導いただいている。 市の防災マップ避難場所の確認は周知徹底している。マップは各部署に配っている。	夜勤専門職員は遅出職員と一緒に避難誘導確認を毎回行っている。運営推進会議の時に消防署や消防団、地域の方(15名)等と夜間想定訓練が行われている。ホーム横に用水路があり、水害時は2階に避難予定である。災害に備えて缶詰や非常食、水等を準備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を常に心がけている。	「排泄時はドアを閉める」等の基本的なケアを徹底し、入浴時等はタオルを前に当てる等、羞恥心への配慮を続けている。毎年、人権研修を行っており、今年度は職員個々に自分の言動を振り返り、レポートを提出すると共に、グループワークを行い、日々のケアに活かされている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけるよう支援している。まだ生活歴や家族からの聞き取りをして希望にそうようにしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日中でも休みたいとの希望があれば居室で休んでもらったり、起床時間が遅い利用者には朝食を合わせて提供したりしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で出来る利用者には好きな服を着てもらおうようにしている。出来ない利用者には好きな服を聞きながら服を決めている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	以前はメニュー決め、食事の準備、配膳、片付けなど役割をもって一緒に行っていたが、現在は食事の準備や片付けを出来る利用者さんはいない。	畑の野菜を収穫して下さる方もおられる。施設長と系列の栄養士が献立を作られており、1日と15日はお赤飯、木曜日はパンの日である。食事介助が必要な方が多く、嚥下に応じて食事形態を変え、時間をかけて介助が行われており、家族も介助して下さっている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿病のある利用者はカロリーや水分量について医師の指導を受けている。当院栄養士によるメニュー表を使っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。毎食後の歯磨き指導、支援。特殊な歯磨き粉を使ったり、本人が嫌がらない味の歯磨き粉を個人に合わせて使ったりしている。特殊な口腔ケアの道具も利用している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中のオムツ使用を減らし、日勤チェック簿で排泄のタイミングを図り介助している。おむつから布パンツに交換している利用者もいる。	下着を着用し、トイレで自立している方もおられる。意思疎通が困難で介助が必要な方も多いが、できる所はご自分でして頂いている。カテーテル留置の方もおられ、尿量測定を日に2回行い、看護師がカテーテル管理等を行っている。昼間に排便できるよう心掛けており、夜の安眠に繋げている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄チェックとバランスの良い食事の提供やサツマイモ、バナナなどおやつ工夫。個人個人の状態を確認、下剤の軽減につとめ快便につとめている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	決まった入浴時間以外でも事情が許せば利用者の希望に応じることはできる。	1つのユニットは湯船に浸かられる方がおられ、できる所は洗って頂いている。他方のユニットは湯船への移乗が困難な方が多く、シャワー浴(足浴)を行い、清潔保持に努めている。施設長のアドバイスでシャンプーを変更し、頭皮の清潔保持に活かしており、入浴時は会話や歌も聞かれている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由に行っているが、昼夜逆転にならないような配慮は行い助言している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の薬に関しては、薬剤情報ファイルにて理解し、確認し合っている。また薬が変わった時には看護師に確認しその後の変化に気を付けている。薬剤師と連携をとっている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誕生会やお茶会、クリスマス会やお正月のお祝いの会を開き、楽しんでもらっている。毎日ラジオ体操をかけている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	人員の都合がつけばお連れする。	重度化されている方が多く、職員の人員体制もあり、外出は減っているが、梅の木街道等の花見にお連れしたり、家族とお盆や正月に自宅に帰られる方もおられる。気候の良い時に庭のベンチで団欒されたり、畑の野菜を収穫される方もおられる。中庭を散歩される方もおられ、毎月の受診時も敷地内の花見を楽しまれている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の能力と状態によっては持たせる事もあるが、トラブルの原因となる為施設で管理している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	定期的に利用者さんにハガキを送って下さるご家族はいらっしゃるが、手紙を書いたり電話をしたり現状では出来る利用者さんはいない。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を生けたり貼り絵などで季節感を出す工夫をしている。	施設長から衛生面、清潔面等の指導があり、ホーム内は綺麗に掃除されている。床暖房であり、冬も快適に過ごされている。1つのユニットはリビング等の共有空間が2か所あり、もう1つのユニットは台所とリビングが1つの空間にある。テーブル、ソファ等が置かれ、庭を眺めることもできる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個室なので利用者をリビングに集めたり強制せず本人の意思を尊重している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	危険のない程度に家具、鏡など置き家族の写真を飾ったりしている。	自宅からタンスや仏壇、座椅子、テーブル等を持ちこまれている。ベッド上で過ごさせる方もおられ、ご本人の目線に家族の写真が飾られている。温湿度管理も徹底し、換気も行われているが、稲穂の時期はアレルギーに配慮し、換気は短時間に行っている。西日が強い部屋は雨戸を活用している。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	決まったものを動かさない、違ったものを置かないなどしている。また、自分の部屋が分かるように色分けした名札をかけたりしている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				